道徳的価値を主体的に捉えられる生徒の育成

～自分自身の問題として向き合い、考えるための発問構成の工夫を通して～

特別研修員　道徳　新井千鶴　（中学校教諭）

生徒の実態

人間関係が固定化し自己の価値観のみで判断しがちである

相手意識に欠ける言動や行動が見られる

実践例

主題名　志高く生きる　Ａ－(４)希望と勇気、克己と強い意志

資料名　「風に立つライオン」　（出典　あかつき）

発問構成の工夫（問い方）

自分自身の問題として道徳的価値に**向き合い、考える**

手立て①

道徳的価値について、経験等からの方向付けをする発問

今までにどのような困難を乗り越えたことがあるか？

手立て②

人間理解・他者理解の深まりを感じられる発問

主人公はなぜつらい状況下でも困難に立ち向かうことができたのだろうか？

手立て③

主体的な価値理解に基づく実践意欲を育てる発問

困難な状況に立ち向かうことができる自分になるためにどうするべきか？

部活で最後まであきらめなかった

ケガをしたがリハビリを頑張った

検定試験に向けて努力し合格した

ペアやグループでの意見交流

小さい頃からの夢だからできた

今まで頑張ってきたことが支えになっている

自分の頑張りで救える人がたくさんいる

困難な中にもやりがいを見つけていきたい

自分を支えてくれる人に感謝したい

発問によって向き合い、考える

目指す生徒像：道徳的価値を自分自身の問題として捉えられる生徒

成果

○ペアやグループでの意見交流では、他者理解の深まりが感じられ、振り返りにつなげることができた。

○手立て①から③までの発問を通して、道徳的価値について向き合い、考えたことで、自分自身の問題として主体的に捉えることができた。

課題

○道徳的価値をより主体的に捉えさせるためには、価値の方向付け（手立て①）と人間理解（手立て②）の発問を明確に関連付ける必要がある。

○一人一人が向き合い、考えるためには、生徒の実態に応じた意見交流活動を工夫する必要がある。